都留高ＰＴＡだより

平成29年３月１日発行
都留高校ＰＴＡ
印刷 ㈱大月プリント社

ＰＴＡ活動を振り返って

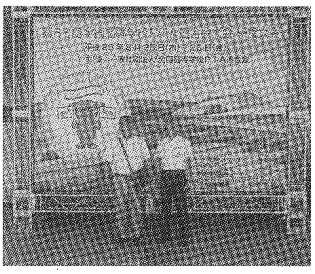
ＰＴＡ会長　長田教義

ＰＴＡの保護者のみなさまには平素よりＰＴＡ活動にご理解ご協力頂き、深く感謝申し上げます。今年四月の総会において会長という大役を仰せつかりまして、早いものでもう年の暮れになりました。

本年度を振り返ってみますと四月には県高Ｐ連の総会があり、その中では監事という役をさせて頂きました。七月には関東高Ｐ連の大会が山梨大会という事で役員の方々はじめ保護者の皆様方には事前の準備にあたり、猛暑の甲府での、人員動員の時など協力頂き感謝いたします。八月には千葉県において全国大会に出席しました。基調講演として女優の市原悦子さんの話を聞きました。十月にはＰＴＡ最大の事業であります強歩大会が行われました。１３８人の保護者の協力のもと、生徒たちにおいては怪我、事故等なく行われた事がなによりだと思います。これも皆様が沿道に立ち、また救護所などでの子供たちへの気配りのおかげだと思っております。厚く御礼申し上げます。

私事になりますが、三年間を振り返るとＰＴＡの活動を通して沢山の方々と出会い、貴重な経験をさせて頂きました。小俣校長先生始め、先生方におかれましては、生徒たちの教育、指導等に携わっていただきましたことに深く御礼申し上げます。生徒が三年間で得た全てが基礎となるはずです。そして迷った時には側にいる両親、友人そして都留高校の恩師に相談して下さい。それを忘れずに未来に向かって歩んで下さい。皆さんの躍進を心から期待しています。卒業生の保護者の皆様、子供たちと共に過ごした三年間、一言では語りつくせないご苦労があったことと思います。今後も、子供たちの良き人生の先輩として、共に見守って行きましょう。

最後になりますが来年度が皆様にとってよい年になりますよう、ご祈念いたしますと共に、今後もより一層都留高校ＰＴＡ並びに学校活動にご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



意識すること

学校長　小俣岳

この言葉を発信してきました。

私たちは、毎日の生活や仕事等に追われ、ともすれば自分が今行っていることが、いったい何のためなのか、どうしてこんなことをしているのかということをほとんど意識しないまま生活しています。ちょっと毎日の生活にいっぱいいっぱいになっていませんか。周りを見る余裕、自分を振り返る余裕、明日の自分を考える余裕、そういったものを持つことなく日々を暮らしているような気がしてなりません。

四月に本校に校長として赴任して以来、機会ある毎に

秋来ぬと
目にはさやかに見えねども
風の音にぞおどろかれぬる

古今和歌集

この歌は藤原敏行という人が詠んだ歌です。

暦の上では立秋を過ぎて秋になったのに、相変わらず暑い日が続いている。そんな時、ふと吹いてきた風に秋の気配を感じてはっと気づかされた。ああ、もう秋なんだ。

私たちの年代は今のように住居も密閉されておらず、朝、布団の中で今日の気温を肌で感じ取りました。冬の朝などは、今日は何を着たら良いか、布団から少し出た頬の感じで決めていました。春夏秋冬、それぞれの日差しを、風を、光を、そして空気を五感の全てを使って感じ取っていました。人との付き合いにも、この感性が役立っていたような気がします。

今、私たちの暮らしは便利になりました。この上なく快適になりました。今の生徒達はきっと「テレビのチャンネルをまわす」ということは分からないでしょう。「チャンネルをまわす？なにそれ」。お風呂を沸かしすぎて「うわあっちっち！」ということも経験が無いでしょう。適温になれば無機質な女性の声で教えてくれます。「お風呂が沸きました」便利ですね。快適ですね。携帯電話なんていうものはウルトラマンの科学特捜隊とかウルトラセブンのウルトラ警備隊だけのアイテムでした。う～ん。なんということでしょう。

この上ない便利さ、快適さの中で私たちは今を生きています。そして、それを実現させてくれたのは他でもありません。私たちの親の世代の知恵と努力です。それを当たり前のように感じてきてしまっている私たちは、その代わりにとても大事なものを失ってしまったような気がしてなりません。

私自身、もう一度「意識」してみたいと思います。今、なぜこんな快適な生活を送ることができているのか。今、なぜ自分はここにこうしているのか。何のために、今このことをしているのか、ということを。

社会で必要とされる力

進路指導主事　七澤浩彦

保護者の皆様には、日頃より本校進路指導部の活動に御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

一月時点での三年生の進路状況は、首都大学東京、山梨大学、都留文科大学、国際基督教大学、中央大学等に推薦入試等で合格が決定しております。また、多くの三年生は一月十四日、十五日にかけて大学入試センター試験を受験し、思い通り結果を出せた生徒とそうでない生徒がいました。しかし、気持ちを切り替え一般入試に臨んでいる姿は、三年間文武両道の精神で培った気概と最後まで諦めずに自分の目標に向かって努力する精神が生きていると感じます。

近年、社会で必要とする力として各種の説明会等で言われていることがあります。今までは、社会に出てから社会人として生きていくために、先輩から教えてもらったり先輩の姿を見て学んできたりしたことを今では高校生活において身につけておく学力の一つと位置づけてきています。従来では知識重視と考え、次に表現力を兼ね備えてプレゼンテーションなど情報機器を使いこなし人々に何かを伝えていく力の育成の改革が進められてきました。さらに、最近では主体性や多様性を持った力を学力に加え、何かを始めるとき如何に周りの人達を巻き込みリードしていくかという力が必要になってきています。本来の学力とは異質な点もありますが、様々な考え方や文化・習慣を持った人達と共通理解を持って協調し、他人を説得して周囲の人達とともに何かを成し遂げていける力が必要になってきています。これから社会で活躍する皆さんには、行動や考え方の視野を広げ学生時代に多くの経験と知識の吸収を意識して、バランス感覚を学生時代から身につけてほしいと思います。

年次コラム

一ミリ先の夢

三年次部会長　亜井芳信

高校生活での充実した三年間を過ごし、希望に満ちた新しい世界に羽ばたく子供達に贈りたい言葉があります。「夢は全力で伸ばした手の指先の一ミリ先にある」夢までは遠く感じる一生届かない一ミリなのか？実はその夢は近くにあり、もう少しで届く一ミリなのか？この一ミリは短くもあり長くもあり、高校生でのいい出会い、いい経験を通じ大きな力を得た子供達にとっては触れてはいないから距離が分からないけど成長すれば必ず届く一ミリだと私は思います。夢と希望に向かうチャンスの一ミリを大切にし、これから前向きに更に手を伸ばし一ミリ先に向かって全力で走り続けてもらいたいと思います。そして、子供達にはいつか本当に夢が近付いてきた時、ちゃんとつかめるように一日一日を大切に過ごしてもらいたいと思います。

I'm proud

三年次部会長　天野慎二

先日、他校のＰＴＡ父兄の方と学校の情報交換をする機会があり、都留高がどのように見られているか興味深いものでしたので、紹介させて頂きます。

①歴史と伝統

都留高は県内でも３番目に歴史のある高校で、この歴史と伝統が信頼や実績として認められ、高大連携などが可能になっていると見られています。

②校　風

都留高は文武両道を謳っていますが、外部からも文武両道と写るようです。

勉強だけすれば、成績は上がるかもしれませんが、部活で優秀な成績を納めながら勉学でも結果を残すのはとても大変なことだと評価されました。

③礼儀・マナー

他校の父兄や先生にまで挨拶が出来たり、ゴミの持ち帰りや清掃など、礼儀マナーが良いとの事でした。

そんな話を聞き、とても嬉しく思いました。

生徒たちもそんな母校に誇りを持って新しい歴史を作って欲しいと思います。

高校生活ってそんなもの？

三年次部会長　天野武雅

「都留高校はつまらない。」子供達の声を耳にする。高校生活って楽しいだけだと思って入学した訳じゃないよね？そういうのって、自分で切り開くんじゃない？何年か経てば解ると思うよ。厳しかった環境が自信に変わって行く事が。

愚痴ってる時間はもったいない。前に進んだほうがいいんじゃないかな？努力はしているだろうな。でも、その努力は本気かな？もっとできるんじゃない!?努力って家族の為にするの？学校の為にするの？他人のため？？自分の為だと思うんだけど！

もっとやりなよ。

やりきりなよ。

やりきってほしい。

さー行きましょう！

声出して行きましょう！

始まりました！都留高劇場!!

羨ましいよ、君たちが。

高鳴け、緑風！

三年次主任　駒田健嗣

「どんな育て方をすれば、こんな素直で心がけの良い子が育つのだろう」都留高校生と接していて、素直にこんな風に感じています。すばらしい生徒たちとの学校生活は喜びや感動の連続でした。多忙を極め、辛く苦しいことも多かった三年間でしたが、卒業を迎えた今、やりがいと充実感を感じています。

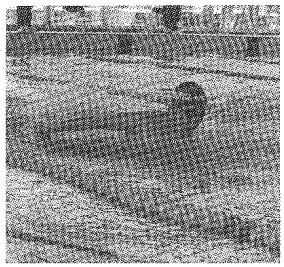
年次職員が常々心がけていたのは、生徒の将来にいかに関わっていくかということでした。都留高校での三年間よりもその後の人生の方が遙かに長く、保護者の皆様とて子どもたちの未来にずっと寄り添えるわけではありません。我々教師集団は、教科内容を教授し、部活動に汗を流し、学校内の諸活動を通じて、共に喜び、共に感動を味わいましたが、その都度意識したのは、子どもたちの人間的な成長でした。

「社会に出て、かわいがってもらうには？」「世の中を変える発想を！」苦しい時に笑える人間に!!」―授業や年次集会を通じて、私自身の老後も、すでに生徒諸君に託してあります。都留高校生はいずれ所属する集団のリーダーになります。豊かな人間性に支えられた無限の可能性は、明日の世の中を必ずや良い方向に変えて行くことでしょう。

保護者の皆様には、この三年間、多大なるご理解とご協力を賜りましたことに、深く感謝申し上げます。ご子弟の卒業後の更なる飛躍を、年次職員一同、心よりお祈り致します。「高鳴け、緑風！」

部活動について

生徒会指導主任　笠井寛仁

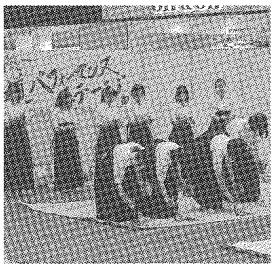


都留高校では、今年度も九割近くの生徒が部活動に参加しており、文武両道を実践していることを示しています。これは、生徒の努力はもとより、保護者の方々の御支援あっての賜物と感謝申し上げます。

五月の県高校総体では学校別順位で男子が十三位、女子が十六位の成績でした。水泳部男子が優勝を果たすだけでなく、水泳部女子が準優勝、ハンドボール部男女、ソフトテニス部男子、空手部、卓球部女子がベスト4に入る活躍をみせました。関東大会には、陸上部、空手部が出場を果たしています。

また、野球部が春季大会で強豪高校を次々と破りベスト4、夏の選手権でもベスト8の成績を残しました。

一方、八月に広島県で開かれた全国総文祭には、地球物理部、文芸部が出場しました。文芸部は十一年連続の出場を果たし、全国大会出場常連校になっています。秋の山梨県高等学校芸術文化祭でも各部がめざましい活躍を見せ、来年度宮城県で開催される全国総文祭に、書道部、放送部、合唱部、地球物理部が出場権を獲得しました。今後も各部の活躍が期待されます。



ＳＡクラスの挑戦 ～主体的に創造する力の育成～

連携推進係ＳＡ担当　松尾洋

先日、ムーギー・キムらの書いた「一流の育て方」という本を読んだ。そこにあった一流を育てる7つの要素とは、①主体性、②好奇心、③やり抜く力、④コミュニケーション力、⑤学習の動機付け、⑥幼少期のしつけ、そして⑦無償の愛情であった。

今、高校教育は帰路にある。これまでの進学実績至上主義では、社会で活躍する人間は育たないという反省のもと、実践力を育む教育が注目されている。その潮流の先端を狙うＳＡクラスでは、協働と体験を重視するカリキュラムを通じて、主体的に創造する力を育める教育を目指す。

初年度の今年は、ＳＳＨの流れもくみながら、首都大学東京で学びの本質を知る（五月）に始まり、研究者の情熱に触れたつくばサイエンスツアー（七月）、大学生や級友らとともに先生や外国人と関わりながら、感覚と行動の大切さを知ったＳＡキャンプ（八月）などを独自に実施した。また、学級文庫やコラム演習により、視野と言葉を広げる活動を進めた。学校だけでなく、保護者と地域も巻き込んで一流を育てる教育にシフトしたい。特に⑦は家庭にしかできません。よろしくお願いします！

『主体的な学習者』の育成をめざして ～中高大連携の推進～

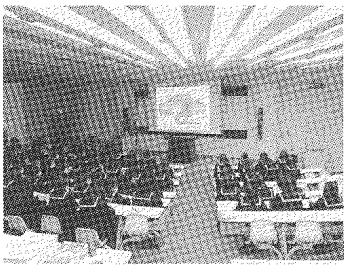
教頭　安達徹

本校では、生徒の「主体的な学び」をより一層深めていくために、「都留高生の課題研究」や同窓生を講師に招いての「キャリアガイダンス」などの取り組みを進めるとともに、高大連携を積極的に推進することによって、大学進学への明確な目的意識と、「学び」に対する意欲の向上を図っています。その一環として、昨年度首都大学東京との間で「教育連携事業の推進に関する協定書」を締結して、本年度から本格的な取り組みをスタートさせました。五月には一年生ＳＡクラスを対象に対話型大学訪問を実施し、「学び」についての講義を受けた後、キャンパス内の見学を行いました。九月には、本校出身の大学一年生による「基礎ゼミ」の研究成果の発表会を開催しました。また、十二月には一年生全クラスで「エネルギー教育推進事業」の一環として首都大学東京を訪問しました。事前学習として、エネルギー問題の新しい解決策をグループごとに考えて発表する取り組みを行ったうえで、大学訪問当日には、首都大学東京の二人の教授から「未来のエネルギー社会」についての講義をしていただき、講義後には三つの研究室を見学し、学生から研究内容についての詳しい説明を受けました。最先端の研究について知ることができただけでなく、高校・大学での学びの在り方について考える良い機会になりました。

さらに、都留文科大学とは十一月に対話型大学訪問を実施し、一年生の希望者がキャンパスを訪問して、外国人講師の講義を受講しました。いずれの行事も、社会・世界に視野を広げるとともに、学びについて主体的に考えるきっかけになったのではないかと思います。

また、今年度から地元の中学校との中高連携の推進にも力を入れています。従来からの部活動を中心とした連携をより一層進展させるとともに、学習面での連携を図るために、本校を会場として中高合同の学習会を開催しました。中学生の自主学習を高校生がサポートするという形で実施しましたが、勉強を教える以外にも高校受験に向けた心構えや勉強の仕方などをアドバイスする様子も見られました。中学生にとっても高校生にとっても、高校で学ぶ意味について改めて考える良い機会になったのではないかと思います。

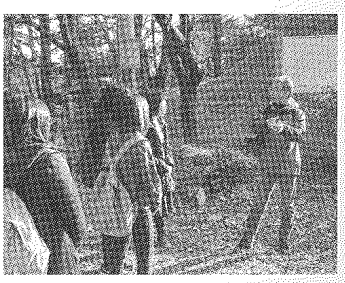
今後も引き続き、中高大の連携さらには地域社会との連携も進めながら、主体的に学ぶ生徒の育成に努めていきたいと考えています。



『都留高生の課題研究』について

総合企画係主任　石原みち代

「総合的な学習の時間」の取組として昨年度から始まった、本校独自の探究活動プログラムである体験型課題研究は、本年度、より高いレベルでの研究を目指し、「都留高生の課題研究」として新たなスタートを切りました。昨年度は前期に二年生、後期に一年生と、各年次が半期ずつの取組でしたが、今年度は両年次全員が四月から課題設定を行い、通年で調査、研究活動に取り組んでいます。「岩殿山の地層」といった自然科学系から「甲州街道漢詩研究」等の文学分野まで、昨年度以上に多岐に渡る研究テーマからは、生徒の知的好奇心の旺盛さ、興味の多様さはもとより、地域が抱える課題への強い関心も窺われます。また、今年度は学校長をはじめ、全職員がアドバイザーとなることで、研究環境が大きく改善され、その結果、「郡内織り」等、地場産業を研究した三つのグループが県芸文祭社会科学部門で発表し、高く評価されたほか、ネイチャーボランティアの経験をもとに「地域の森林保護と活用」について探究活動を行ったグループが、全国規模のコンテストで佳作を受賞するなど、既に目覚ましい成果も出ています。また、生徒は研究レポートの作成やプレゼンテーションにも極めて意欲的であり、本プログラムが、生徒の「自ら学ぶ姿勢」を涵養する取組であるという確信を得ています。全ての生徒が、「課題を発見し、他と協働してそれを解決する力」を身につけ、めまぐるしく変化する新しい時代を逞しく生き抜き、地域社会に貢献できる人材に成長していくことを願い、今後も本探究学習活動を、一層充実させていきたいと思います。



集記編後

新しい出会いの中、本年度も役員、会員の皆様にご協力頂き、無事にＰＴＡだより発行の運びとなりました事を、大変嬉しく思います。

私自身、ＰＴＡ活動に携わらせて頂く中、先生方の御指導や地域の皆様、そして、保護者の皆様の温かい見守りに改めて触れさせて頂きました。

ありがとうございました。

今後も大勢の皆様のお力で都留高ＰＴＡがより一層発展しますよう心より祈念いたします。

終わりになりましたが、本紙を発行するにあたり、お忙しい中寄稿してくださいました先生方、役員の皆様方には深く御礼申し上げます。

女性部一同